

特別講演 | 2023年11月23日

📅 2023年11月23日(木) 12:45 ~ 13:45 📍 A会場 (KFMホール"イオ")

特別講演

医療情報による知識構築と社会変革：第三期SIPへの期待

座長：松村 泰志（国立病院機構 大阪医療センター）

[2-A-4-01] 医療情報による知識構築と社会変革：第三期SIPへの期待

*永井 良三¹ (1. 自治医科大学学長)

キーワード：Medical Informatics、Social Metamorphosis、The Third Iteration of the Strategic Innovation Program

1974年、東京大学医学部卒業。東大病院第三内科医員を経て、1983-87年に米国バーモント大学生物物理学教室、客員准教授。1988年、東大病院検査部講師、1991東京大学医学部第三内科講師・病棟医長、1993-95年、同助教授。1995 - 99年、群馬大学医学部第二内科教授（医療情報部長兼任）。1999-2012年、東京大学内科学循環器内科教授、2003-07年、東大病院病院長、2012-24、東京大学トランスレーショナルリサーチ機構長。2014-現在、自治医科大学学長、2014-現在、科学技術振興機構上席フェロー。2019-現在、宮内庁皇室医務主管。2010-15 内閣府最先端研究開発支援プログラム「未解決のがんと心臓病を撲滅する最適医療開発」中心研究者、2023-現在、内閣府第三期SIP統合型ヘルスケアシステムの構築」プログラムディレクター。心臓血管病・がんの病態解明と創薬、循環器病の観察・介入研究、電子カルテ情報連携、症例報告の電子化などに取り組む。

医療情報による知識構築と社会変革

- 第三期 SIP への期待 -

永井 良三^{*1}

*1 自治医科大学

The Epistemological Development and Societal Metamorphosis via Medical Informatics

- Anticipations for the Third Iteration of the Strategic Innovation Program -

Ryozo Nagai^{*1}

*1 Jichi Medical University

講演概要

医療は情報の塊であり、医療情報を利活用によって医療のあり方を変えることができる。わが国では 1970 年代から病院の電算化が始まったが、医事会計の業務改善が主であり、医療現場の当時者、すなわち患者や医療従事者に対するメリットは小さかった。このため多様で膨大な臨床データの分析を行おうことは大変困難である。唯一の例外は、SS-MIX2 の開発だが、拡張ストレージの扱いは容易ではない。

医療情報の利活用が、医療の質を改善することは言うまでもない。しかし医療情報から医療者や患者、行政が知識を作ることの重要性は、さほど認識されていない。これは医療の実態を知り、臨床的事象の原因や未来を推測するために必要であり、ある意味では、国民の知る権利に直結する。医療機関はマニュアルにしたがって医療行為を実践するだけでなく、自らが行う医療の質や有効性を常に評価して実践しなければならない。予後は患者背景に左右されるために、同じ疾患でも医療機関によって予後は異なる。このため医療と臨床医学研究は一体であり、医療法が、「医療提供施設は、医療の担い手の診療、研究又は研修のために利用させるよう配慮しなければならない」と定めているのはこの理由による。医療機関での研究とは、医療情報の利活用には他ならない。

この状況に対して、内閣府の第三期戦略的創造プログラム(SIP)では、「統合型ヘルスケアシステムの構築」を取り上げた。本プログラムでは、「医療デジタルツイン」、すなわち異なる病院電子カルテや PHR の情報を統合するシステム構築が一つの柱である。電子カルテ統合が難しい中で、カルテのコピーを作る際に標準化し、これを分析して知識発見の基盤を構築することを目指す。その他に、医療者支援、患者の受診支援、医療政策支援、へき地診療所電子カルテ開発、医療文書要約作成システムなども開発し、医療・IT 産業の振興を図る。講演では、本 SIP の背景と目指すところを紹介する。

演者略歴

1974 年、東京大学医学部卒業。東大病院第三内科医員を経て、1983-87 年に米国バーモント大学生物物理学教室、客員准教授。1988 年、東大病院検査部講師、1991 東京大学医学部第三内科講師・病棟医長、1993-95 年、同助教授。1995-99 年、群馬大学医学部第二内科教授(医療情報部長兼任)。1999-2012 年、東京大学内科学循環器内科教授、2003-07 年、東大病院病院長、2012-24、東京大学トランスレーショナルリサーチ機構長。2014-現在、自治医科大学学長、2014-現在、科学技術振興機構上席フェロー。2019-現在、宮内庁皇室医務主管。2010-15 内閣府最先端研究開発支援プログラム「未解決のがんと心臓病を撲滅する最適医療開発」中心研究者、2023-現在、内閣府第三期 SIP 統合型ヘルスケアシステムの構築」プログラムディレクター。

心臓血管病・がんの病態解明と創薬、循環器病の観察・介入研究、電子カルテ情報連携、症例報告の電子化などに取り組む。